

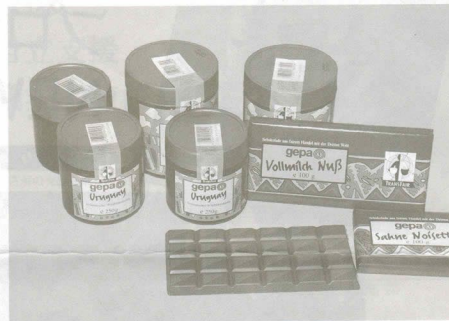
公平貿易のチャレンジ ヨーロッパでの見聞より

橋本 純 事務局

11月初旬、イギリス、オランダ、ドイツをめぐってトランスフェアとその兄弟組織を中心に、公平貿易を実践している団体を訪問する機会に恵まれました。その体験の中でポイントをしぼって感じたことをご紹介します。

公平貿易の運動は、1960年代ヨーロッパの学生を中心に生まれてきた南北問題への強い関心と、それにこたえていこうとするキリスト教会のバックアップによって誕生した、といっていると思います。ですから最初のころの商品は、むしろセージの遊び手としての性格が強く、品質という点では目をつぶるしかない状況が多分にあったようです。でも現在はむしろ、ヨーロッパの市場に通用するものを、ということが強調され、品質向上にたいへん努力をしていることがうかがえます。

しかしこのことは、ある意味で矛盾、衝突をはらんでいるわけです。つまり、不正と貧困の中で苦しみたいかを強いられている小規模な生産者に品質の向上、安定した生産を求めていけば、それに対応できない生産者も出てくるはずで、現に生産者に「この商品では売れません」といって断わるしかない状況がでてきたりするわけです。そうすると、「われわれは開発協力のための団体なのか、それとも普通の貿易会社と対等な土俵に立つ競争相手なのか」という疑問が起ってきます。今回、訪問したドイツで最も大手である「GEPA (ガバ)：第3世界との協力促進協会」では、まさにこのことをめぐって自分たちの仕事のアイデンティティが問われているという危機感と、それと同時に、この矛



コーヒー、紅茶についてカカオ、砂糖、蜂蜜のトランスフェア基準が設定されました。試みに、GEPAからチョコレートと蜂蜜を購入するよう発注しました。入荷時期不明です

盾に正面から取り組んでいくしかない、という姿勢を感じました。

トランスフェアでも、同じようなチャレンジがあります。コーヒーを例にとると、コーヒーの生産者登録は、すべてに買い上げを保証するものではなく、輸入業者に示す候補者名簿のようなものなわけで、どのコーヒーを買うかは完全に買い手の選択なのです。ですから一方で長年の実績から買い手がしっくりついたりウハウハウも蓄積され、設備も整ってきた、ある意味で自立してもやっつけける生産組合も出てくるし、しかし一方で新しい設備や生産技術の未熟によって、登録してもトランスフェアの価格での買い手がつかない、という生産者も出てきます。

トランスフェアの運動は特に「普通の店とそこで普通に買い物をする人」に対する働きかけを主眼においた運動 (というか戦略) です。ですから、このことは大きな課題だと言えると思います。

コープこうべ トランスフェアに参加!

トランスフェアジャパは、かねてより呼びかけていた、新しいトランスフェア認定シールつきコーヒーの販売について、強力な援軍を得ることができました。世界で最大の組合員数を擁する「コープこうべ」が、UCCの協力を得てトランスフェアのコーヒー生産者登録に加入しているグアテマラのコーヒーを、販売する方向で現在積極的に動いて下さっています。

「コープこうべ」の熱心な取り組みに感謝申し上げるとともに、消費者と生産者のきずなを大切にすることを期したいと思います。



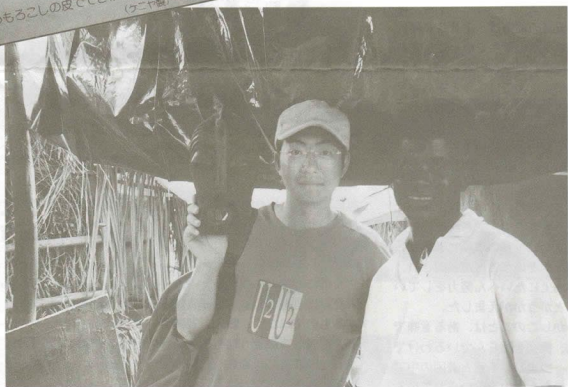
わかちあい プロジェクト

NEWS No.8

1996 November



どうもこしの段でできた試製桶のアイス (7/20撮影)



カクマ難民キャンプの工藤くん

ルワンダ難民ジョン・ボスコ宅で昼食を食べた日のこと 工藤 哲

「彼はルワンダ人フツ族。自ら外国人に寄ってくるタイプではない。昼食は熱い米と、豆で作ったソース。俺は食べるのに相当時間がかかる。何度も吐き出しそうになった。バサバサして味気のない食事だった。でも残したら彼に殴られそうだったので歯をくいしばった食べた。こんなに苦勞してモノを食べたのは生まれて初めてである。彼は一日一回昼に食事をとる。あの米と豆を一気に2杯食べる。これでよくあれだけ働けるものだ。」

彼はこう言った。『もう戦争はたくさんだ。君に想像できるかい、難民の生活が、俺の国では100万人が殺された。そして今もザイールの

キャンプに100万人が住んでいる。これらの難民キャンプはvery badだ。学校もない。水もない。皆、水を飲んで死んで行く。食料もない。こうなると人間は動物と同じだ。自分の食料のためなら他人への同情も起こらないさ。そしてただ人が死んで行くのを見てるんだ。動物だ。動物! だから俺は平和が好きだ。もう争いはたくさんだ。スーダン人の争いもうんざりさ。平和さ。平和!』

彼は冷たくてそう言った。そして彼は4年前、ルワンダにいた頃の写真を見せてくれた。背広を着て、顔は自信に満ちて別人のようだった。かつてはエコノミストだと言っていた。」